

改 正 後

個⑥100 平成 年分収支内訳書（一般用）付表《医師及び歯科医師用》【裏面】

**3. 必要経費の内訳**

(1) 自由診療分

$$\left\{ \begin{array}{l} \text{原価及び経費の総額} \\ \text{(収支内訳書(一般用)の⑨+⑩+⑪)} \end{array} \right\} - \left[ \begin{array}{l} \text{自由診療分と社会保険} \\ \text{診療分とに明確に区分} \\ \text{できる経費の総額} \end{array} \right] \times \left[ \begin{array}{l} \text{自由診療割合} \\ \text{(表面の㉑又は㉒)} \end{array} \right] \times \left[ \begin{array}{l} \text{左の㉑のうち自由診} \\ \text{療分に係る経費の} \\ \text{金額} \end{array} \right] + \left[ \begin{array}{l} \text{自由診療分の原価} \\ \text{及び経費の合計額} \end{array} \right] \text{円}$$

(注) ㉑の欄には、事業税のようにいずれの収入に係る経費であるかの区分が明らかでない経費の総額を記載します。

(2) 保険診療分

$$\left[ \begin{array}{l} \text{原価及び経費の総額} \\ \text{(収支内訳書(一般用)の⑨+⑩+⑪)} \end{array} \right] - \left[ \begin{array}{l} \text{自由診療分の原価及び経費} \\ \text{の合計額(Aの金額)} \end{array} \right] = \left[ \begin{array}{l} \text{社会保険診療分の原価} \\ \text{及び経費の合計額} \end{array} \right] \text{円}$$

(3) 租税特別措置法第26条の規定による社会保険診療分の経費の額

右の速算表から社会保険診療報酬の金額に応じた⑥率及び⑦加算額を次の算式に当てはめて計算してください。

$$\left[ \begin{array}{l} \text{社会保険診療報酬} \\ \text{(表面の㉑+㉒)} \end{array} \right] \times \left[ \begin{array}{l} \text{速算表の} \\ \text{⑥率} \end{array} \right] + \left[ \begin{array}{l} \text{速算表の} \\ \text{⑦加算額} \end{array} \right] = \left[ \begin{array}{l} \text{租税特別措置法第26条の} \\ \text{規定による必要経費の金額} \end{array} \right] \text{円}$$

(4) 社会保険診療分の経費と租税特別措置法第26条による金額との差額

$$\left[ \begin{array}{l} \text{租税特別措置法第26条の規定に} \\ \text{よる必要経費の金額(Cの金額)} \end{array} \right] - \left[ \begin{array}{l} \text{社会保険診療分の原価及び経費の} \\ \text{合計額(Bの金額)} \end{array} \right] = \left[ \begin{array}{l} \text{D} \\ \text{差額} \end{array} \right] \text{円}$$

(注) Dの金額を「収支内訳書(一般用)11ページの「所得金額⑫」欄の下の余白に「措置法差額〇〇〇円」と記載し、その金額を控除して所得金額を計算し、記載してください。

併せて、申告書B第二表の「C(特別適用条文等)」欄に「措法26」と記入してください。

社会保険診療報酬	⑥率	⑦加算額
2,500万円以下	72%	— 円
2,500万円超 3,000万円以下	70%	500,000円
3,000万円超 4,000万円以下	62%	2,900,000円
4,000万円超 5,000万円以下	57%	4,900,000円

改 正 前

個⑥100 平成 年分収支内訳書（一般用）付表《医師及び歯科医師用》【裏面】

**3. 必要経費の内訳**

(1) 自由診療分

$$\left\{ \begin{array}{l} \text{原価及び経費の総額} \\ \text{(収支内訳書(一般用)の⑨+⑩+⑪)} \end{array} \right\} - \left[ \begin{array}{l} \text{自由診療分と社会保険} \\ \text{診療分とに明確に区分} \\ \text{できる経費の総額} \end{array} \right] \times \left[ \begin{array}{l} \text{自由診療割合} \\ \text{(表面の㉑又は㉒)} \end{array} \right] \times \left[ \begin{array}{l} \text{左の㉑のうち自由診} \\ \text{療分に係る経費の} \\ \text{金額} \end{array} \right] + \left[ \begin{array}{l} \text{自由診療分の原価} \\ \text{及び経費の合計額} \end{array} \right] \text{円}$$

(注) ㉑の欄には、事業税のようにいずれの収入に係る経費であるかの区分が明らかでない経費の総額を記載します。

(2) 保険診療分

$$\left[ \begin{array}{l} \text{原価及び経費の総額} \\ \text{(収支内訳書(一般用)の⑨+⑩+⑪)} \end{array} \right] - \left[ \begin{array}{l} \text{自由診療分の原価及び経費} \\ \text{の合計額(Aの金額)} \end{array} \right] = \left[ \begin{array}{l} \text{社会保険診療分の原価} \\ \text{及び経費の合計額} \end{array} \right] \text{円}$$

(3) 租税特別措置法第26条の規定による社会保険診療分の経費の額

右の速算表から社会保険診療報酬の金額に応じた⑥率及び⑦加算額を次の算式に当てはめて計算してください。

$$\left[ \begin{array}{l} \text{社会保険診療報酬} \\ \text{(表面の㉑+㉒)} \end{array} \right] \times \left[ \begin{array}{l} \text{速算表の} \\ \text{⑥率} \end{array} \right] + \left[ \begin{array}{l} \text{速算表の} \\ \text{⑦加算額} \end{array} \right] = \left[ \begin{array}{l} \text{租税特別措置法第26条の} \\ \text{規定による必要経費の金額} \end{array} \right] \text{円}$$

(4) 社会保険診療分の経費と租税特別措置法第26条による金額との差額

$$\left[ \begin{array}{l} \text{租税特別措置法第26条の規定に} \\ \text{よる必要経費の金額(Cの金額)} \end{array} \right] - \left[ \begin{array}{l} \text{社会保険診療分の原価及び経費の} \\ \text{合計額(Bの金額)} \end{array} \right] = \left[ \begin{array}{l} \text{D} \\ \text{差額} \end{array} \right] \text{円}$$

(注) Dの金額を「収支内訳書(一般用)11ページの「所得金額⑫」欄の下の余白に「措置法差額〇〇〇円」と記載し、その金額を控除して所得金額を計算し、記載してください。

併せて、申告書B第二表の「C(特別適用条文等)」欄に「措置法第26条」と記入してください。

社会保険診療報酬	⑥率	⑦加算額
2,500万円以下	72%	— 円
2,500万円超 3,000万円以下	70%	500,000円
3,000万円超 4,000万円以下	62%	2,900,000円
4,000万円超 5,000万円以下	57%	4,900,000円